令和５年度　授業改善推進プラン

国分寺市立第八小学校

1　学校として目指す授業

○丁寧に粘り強く取り組む力が身に付く授業　○一つ一つの知識がつながり、「できた！」「わかった！」と思える授業　○自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業

2　児童の現状

（1）「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校６年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語の平均正答率は、全国と比較して低い傾向にある。特に「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」と「B書くこと」が低く、また、記述式の問題の正答率も低いことから、粘り強く課題に取り組み自分の考えを表現する力に課題が見られる。 ・算数の平均正答率は、全国と比較すると若干高い傾向にある。しかし、相対的に見て「A数と計算」や「Dデータの活用」の領域の正答率が低いことから、基礎・基本を定着させるために繰り返し取り組む力や読み取った情報を自分の言葉で表現する力に課題があることが分かる。	・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」や「互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の問いに対しては否定的な意見が多く、積極的に自分の考えを表現したり取り入れたりしようとする意欲が十分でないことが考えられる。 ・本校の児童は、ICT機器の活用が勉強の役に立つことは理解しているが、ICT機器の活用状況が低い傾向にあり、全国と比較しても日常からの活用が十分ではないことが分かる。 ・教科の中では「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して「当てはまらない」と回答した児童の割合が全国に比べて10%近く高いことから、算数に苦手意識をもつD層の児童が多い傾向にある。

（2）東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校４～６年生）

・学習の進め方の中で「確実にできるようになるまで、くり返し練習しているか」の問いについて、約3割の児童が否定的な意見をもっている。また、「難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいるか」「分からないことがあっても、学習を続けるようにしているか」の問いに対して、学年が上がるにつれて否定的な意見が増えていることから、本校の児童は、学習課題に対してあきらめずに粘り強く取り組むことに課題があると考えられる。
・同じく、学習の進め方の「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめているか」や「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしているか」については、4割以上の児童が否定的な意見であり、自分の考えを発信しようとする意欲が十分ではないことも分かる。また、学習指導の工夫の中で、他の人と交流しながら課題を解決する活動や自分の考えを他の人に説明する時間が十分でないと考える児童が３割近くいることから、指導する教員が、児童が自分の考えを発信したり友達と交流したりする場面を意図的に設定し授業を展開していく必要がある。

（3）　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
【東京ベーシックドリル（算数）の結果から】 ・どの学年も、表とプラフに関する問題の正答率が低い。正確に数値を読み取り、グラフに表現することに課題がある。 ・3年生で学習する時間や時刻の正答率が低く、日常生活から身に付けさせる必要がある。 ・6年生では、がい数や割合の正答率が低いことから、下の学年から系統的に基礎・基本を定着させるとともに、テープ図や表などに表して理解させていく必要がある。

3　児童の学力・学習状況等の課題

・基礎的・基本的な学力の定着が十分でない児童がいる。
・学習課題に対して、あきらめず粘り強く取り組むことに課題がある。
・積極的に自分の考えを表現したり、他者の考えを取り入れたりしようとする意欲が十分でない。
・読み取った情報を自分の言葉で表現する力に課題がある。
・ICT機器の活用が日常から十分ではない。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1　学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2　児童の現状」にまとめる。
③「2　児童の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「3　児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3　児童の学力・学習状況等の課題」を基に，「4　学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4　学校全体の授業改善の視点」を基に、「5　各教科における授業改善の方策」を設定する。　→　学校指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、３学期以降の指導に生かす。

4　学校全体の授業改善の視点

A　基礎的・基本的な内容の定着の徹底。
B　粘り強く取り組み、全ての児童ができた、分かったと実感する授業の実践。
C　１人１台ICT端末を活用するなど、自分の考えをもち、表現する場面を取り入れた多様な授業形態。

5　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	A 漢字や文の構造（主語、述語等）の指導を行い、定着させる。 C 文章を読んだ感想を話したり、お互いの成果物の良さを伝えあったりする、対話的活動を充実させる。				A 定着が不十分な場合には、放課後学習など個別に支援ができるようにしていく。 C ICT機器を活用して、児童が考えるきっかけを作ったり、児童の考えを共有して学習内容の理解を深めたりできるようにする。				B 内容や時間の見通しをもち、児童の生活や体験に基づいた具体的な活動を行う。 C ICT機器を活用するなど、様々な形で発表できるような場を設定する。		A 授業の流れと学習活動を明確にし、見通しをもたせる。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 正しい道具の使い方を定着させる。 C 様々な材料による表現方法を知り、すべての児童が楽しく発想や構想ができるよう工夫する。				A 運動をする上で守るべききまりを繰り返し指導し、定着させる。 C 児童がお互いの活動を見合い、お互いの良いところや改善点等を伝え合う活動を取り入れる。				B 児童が主体的に考えることができるように、課題意識のある教材提示や発問の精選を行う。 C 話合い活動では、ICT機能のポジショニング機能や役割演技などの表現活動の工夫を取り入れ、自分の考えを深めることができるようにする。	
中学年	B 自分の考えをまとめ、発表し合う時間を十分に設定する。 C タブレットを用いた調べ学習を積極的に取り入れる。		A 基礎的な知識を繰り返し指導する。 B 資料から読み取ったことや考えを話し合う時間を十分に設定する。		A　東京ベーシックドリルを活用し前学年の復習を行い基礎基本の定着を図る。 B 対話的な活動を通して解決の方法を比較検討しよりよい解決方法を身に着けていくよう指導する。 C ICT機器や半具体物の操作活動を通して自分の考えを表現できるように工夫する。		A「問題→予想→実験→結果→考察→まとめ」の思考の流れを大切にし、基礎的・基本的な学習の流れを定着させる。 B 学習した内容を日常生活に照らし合わせて考えさせる。				A 生涯的に音楽とかかわることができるようなきっかけづくりとして様々なジャンルの音楽にふれる機会を作る。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 正しい道具の使い方を定着させる。 C 中間鑑賞をしたり、表現方法や工夫を発表する場面を設定し、互いに認め合うとともに達成感を感じられるようにする。				B 児童同士で教え合ったり見合ったりする協働学習を通して、運動のコツを見付けさせ、課題を解決させていく。 C 運動のやり方やルールを模範演技や映像資料などで明確にし、指導する。				B 話合い活動の時間を設け、自分の考えと他者の考えとの共通点や相違点に気付くことができるようにする。 C ICTを活用して教材提示を工夫したり、児童の考えを可視化したりすることで、主体的な学習を促す。	
高学年	B 自分の考えを整理し、まとめる時間を十分に確保することで、思考力・表現力を高めていく。 C Teamsなどを活用して、より多くの友達と意見交流する機会を設け、多面的多角的な見方ができるようにする。		B 社会的事象を比較したり関連付けて考えたりしたことを、図や文章でまとめる時間を十分に確保する。 C 自分の考えを表現できるように、グラフや表、写真、地図に触れる機会を増やしたり、ICT機器を活用したりする等、資料の読み方を丁寧に指導する。		A　東京ベーシックドリルを活用し反復学習を行い基礎基本の定着を図る。 B 対話的な活動を通して解決の方法を比較検討しよりよい解決方法を身に着けていくよう指導する。 C ICT機器や図の活用を通して自分の考えを分かりやすく表現できるような工夫をする。		B　予想や考察をしやすい事象を提示することで、児童が自分の考えを表現できるようにする。 C　観察物や実験の様子をカメラ機能を使って記録することで、より事実に基づいた考察ができるようにする。				A 生涯的に音楽とかかわることができるようなきっかけ作りとして様々なジャンルの音楽にふれる機会を作る。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 材料や用具の使い方の確認と応用をする。 C 経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料を選べるように、学習活動に幅をもたせ、自分なりの表現ができるようにする。		A　日常生活との関連を常に意識し、生活に生かせる知識・技能を身に付けさせる。 C　動画や写真、ICTを活用して調理方法や裁縫の仕方を視覚的に理解しやすくすることで、児童の意欲を高める。		B 運動が「できる」だけではなく、運動技術を「わかってできる」授業を実践する。 C ICT機器を用いた学習を積極的に取り入れ、協働的な学びを実現させる。		A 単語や表現を、チャンツやゲームを通して慣れ親しんだり、ALTのネイティブな発音を参考に繰り返し練習したりする。 C 発表やコミュニケーションの場面では、児童がプレゼンテーションソフトなどを作成する場面を作ることで、自信をもって発話できるようにする。		A 一人一人が自分の考え方や感じ方を、のびのびと表現することができる雰囲気を、授業の中でつくる。 B 導入や展開の前段で児童にとって身近な課題を提示し、課題意識をもたせ、主体的に考えさせるようにする。	